

入間市上下水道審議会会議録

会議の名称	入間市上下水道審議会 (令和2年度第2回)
開催日時	令和3年3月10日(水) 午後1時30分開会・午後3時閉会
開催場所	豊岡配水場2階 大会議室
議長氏名	会長 森谷秀一
出席委員	村上哲司、小川晋、相葉学、若色房夫、小堀八千代、林恵子、竹野谷久江、上野菜津子、池上公子、押木稔、手島吉紀
欠席委員	難波博、大沼正哉、坂本悦子
傍聴人	なし
出席職員	<p>上下水道部 岩田上下水道部長</p> <p>上下水道経営課 忽滑谷参事兼課長、石井主幹、森田主幹、永井主任、長山主任</p> <p>上下水道給排水課 大津課長</p> <p>上下水道整備課 黒田課長、原島主幹</p> <p>上下水道管理課 矢須課長、那須主幹</p>
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 令和3年度水道事業会計予算 入間市新水道ビジョンに位置づけられる令和3年度水道事業</p> <p>(2) 令和3年度下水道事業会計予算 入間市下水道事業中長期経営計画に位置づけられる令和3年度下水道事業</p> <p>(3) 入間市新水道ビジョンの見直し</p> <p>(4) 入間市下水道事業中長期経営計画の見直し</p> <p>(5) その他</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>

配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度第 2 回入間市上下水道審議会会議次第 ・令和 3 年度 水道事業会計予算（資料 1） ・入間市新水道ビジョンに位置づけられる令和 3 年度水道事業（資料 2） ・令和 3 年度 下水道事業会計予算（資料 3） ・入間市下水道事業中長期経営計画に位置づけられる令和 3 年度下水道事業（資料 4） ・入間市新水道ビジョンの見直しについて（資料 5） ・入間市下水道事業中長期経営計画の見直しについて（資料 6）
会議録作成方法	要点筆記

発 言 者	会議の進行・発言内容
森 谷 会 長	<p>しばらくの間議長を務めさせていただきます。</p> <p>本日の欠席は 3 名です。また、押木委員は少し遅れます。</p> <p>定員の過半数に達しておりますので、ただいまより令和 2 年度第 2 回入間市上下水道審議会を開会いたします。</p> <p>それでは、さっそく議事に入ります。</p> <p>次第 3、報告事項「(1) 令和 3 年度水道事業会計予算及び入間市新水道ビジョンに位置づけられる令和 3 年度水道事業」について、一括して担当より説明願います。</p>
石 井 主 幹	<p>令和 3 年度 水道事業会計予算（資料 1）、入間市新水道ビジョンに位置づけられる令和 3 年度水道事業（資料 2）について説明</p>
若 色 委 員	<p>資料 1 (2 ページ) の⑥の水道料金徴収等業務委託として 1 億 2,650 万円という大層な金額が計上されているわけですけれども、私もそうなのですが、利用者の水道料金の大半は銀行口座の自動引き落として、一部の方がクレジットとなっていると思いますが、水道料金徴収等業務委託というものは住居に訪問して行う集金業務のことなのですか。実態はどのようなことなのかをご説明願います。</p>

石 井 主 幹	こちらはお客様センターとして窓口業務や検針業務、滞納整理などの料金徴収全般を包括的に委託しているものです。料金徴収だけの委託ではなく包括的業務委託として5年間お願いしているものです。
若 色 委 員	大半の方が銀行口座自動引き落とし、一部の方がクレジットカード払いであれば、包括的業務委託とは言っても、委託料が大きく感じますので、検討項目として取り組んでいただくほうが良いのではないかと考えます
石 井 主 幹	2ページにあります通り、平成29年度から令和3年度の5年間の委託ということで、来年度が最後の年になります。次期の委託に際し、検討したいと思います。
手 島 委 員	当年度純損益で、収入から支出を引いても数字が合わないのは、収入と支出の間に他に何かコストがあるのですか。
石 井 主 幹	税抜の収入から支出を単純に引くとマイナス4,727万6千円となり、「7.当年度純損益」2,337万7,000円とは2,389万9,000円の差があります。この差額は申告により納付する消費税の額です。資料に記載はありませんが、「5.収益的支出」の中には申告によって納付する消費税額が含まれています。損益の計算は、この消費税額も抜いて計算しますので、収益的支出29億6,086万3,000円から納付する消費税2,389万9,000円を引いたものを支出として収入から差し引けば、2,337万7,000円の純損失になります。
手 島 委 員	新水道ビジョンの63ページに令和3年ですから平成33年度の欄だと思うですが、ここで特別損失2億円ぐらい計上されているが、2,600万円の黒字になっているわけですよね。収益的収入は増えているわけです。約9,000万円増えているのに、何で赤字になるのかなと思う。5,000万円ぐらい変わってしまう。新水道ビジョンで折り込み済みなのに差異が出るのが、よくわからない。
石 井 主 幹	収益的収入も試算値よりも当初予算の方が上回っていますが、それ以上の差で収益的支出は当初予算の方が上回っているということです。支出も科目によっては年度ごとに大きく増減します。例えば修繕費などは、試算では平成30年度以降、毎年度0.48億円で見込んでいますが、令和3年度は予算が大きく上回っています。そういうものの差を合計すると試算値よりも当初予算の支出の方がかなり上回り、結果的に2,337万7,000円の損失となっているものです。

手 島 委 員	新水道ビジョンを作ったときよりもどこのコストが増えているのか。何か見直しができるものはないのかということをぜひ考えていただきたいと思います。
若 色 委 員	資料 1 の 2 ページの②の部分の県水受水費について、前年度と比べると 7.42%減とかなり圧縮した形となっているが、令和 2 年度の自己水比率の実績と令和 3 年度の予算上の自己水比率を教えていただきたい。
矢 須 課 長	今年度につきましては、鍵山・東金子送水管布設替工事がありましたので、自己水が取水できていない状況であります。1 月から 3 月まで県水に頼っている状況でございます。現在のところの令和 2 年度の自己水比率の見込みは 15.2% であり、令和 3 年度の予算では 20%を計上しております。
若 色 委 員	令和元年度の予算で自己水比率 20%を計上していたところ、実績が 18.18% となっており、目標に満たなかった。今年度は更に下がったというわけであるが、自己水に関しては、鍵山の浄水設備の運転のオペレーションを業者に一括委託していると思うが、量が多少増えようが増えまいが委託費はほとんど変わらないはずである。多少量が増えることでポンプの電気代が多くなることは考えられるが、20%を下回るということは、収益的負担がかなり大きいので、何とか工夫して 20%以上を実績においてもキープするような方策を検討していただきたい。令和 2 年度が 5%減ったと考えると、その 5%分余計に県水を買わなくてはならない。その費用はかなりの金額となるので、その分がそのまま損をしたということになる。この件に関しては本当に対応策をご検討頂いたほうがいいと思う。
森 谷 会 長	この県水と自己水の話題は 10 月の審議会でも話題になり、委員から指摘があった。やはり 20%以上は確保できないと、その分収益が減ってくる。元年度、2 年度が 20%下回るということであれば、3 年度はその分を補填するような形で自己水を増やすようにしなければいけないのではないか。この件に関しては検討していただけますか。 他に質疑はありますか。 質疑がないようなので、続いて「令和 3 年度下水道事業会計予算」と「入間市下水道事業中長期経営計画に位置づけられる令和 3 年度下水道事業」について

	て説明をお願いします。
森 田 主 幹	令和 3 年度 下水道事業会計予算（資料 3）、入間市下水道事業中長期経営計画に位置づけられる令和 3 年度下水道事業（資料 4）について説明
手 島 委 員	収益的支出のうち、流域下水道維持管理負担金として 3,000 万円近く増えているが、これは毎年変動するものなのか。
森 田 主 幹	流域下水道維持管理負担金は荒川右岸流域下水道の施設で汚水を処理することにかかった経費で、1 トンあたり税込みで 32 円かかり、水量によって負担金の額が増減するものです。今回 3,000 万円増額していますが、これは予算を組む段階で過去 5 年間に発生した汚水の四半期ごとの処理量の大きいところを組み合わせた金額であり、最大の数字で見込んでいるものであります。令和元年 10 月には大きな台風などの影響により、不明水などが入って汚水処理量が大変多くなってしまいましたので、令和元年度のような状況が発生した場合を想定した負担金を計上させていただいております。
手 島 委 員	多めに計上しているということか。
森 田 主 幹	その通りです。
手 島 委 員	あともう一つ聞きたいのですが、収入の一般会計繰入金が 6,000 万円下がっているが、これはどのような経緯だったのか。
森 田 主 幹	一般会計からの繰入金は、総務省の基準に基づく負担金とそれ以外の補助金に分かれます。今回の減額は補助金に対して行われたものであります。補助金は、一般会計と協議の上でその額を毎年決めさせていただいていますが、令和 3 年度につきましては、コロナの関係で一般会計の財政が非常に厳しい状況であるということで、額を協議する中で 6,000 万円の減額となったものであります。
手 島 委 員	当年度純利益が発生することを見込んだ上で、下げる金額をこの数字としたのか。
森 田 主 幹	その通りでございます。下水道にとって補助金は貴重な財源であり、補助金がなければ将来的に使用料の改定に繋がってしまうので、事業運営に大きな影響を与えない範囲で金額を協議させていただきました。
村 上 副 会 長	資料 3 の 2 ページ②の雨天時浸入水対策計画策定業務委託に関してですが、

	これは雨天時の浸入水がかなり増えているという認識をもっておられることでこれから計画を策定されるということだと思いますが、雨天時の浸入水はどのくらい増えているという認識をしていますか。
矢須課長	令和元年度の10月に台風19号があった影響で、その月の雨水処理量が前年度と比較して56.8%増量したことが分かっております。
村上副会長	約57%増えたということでかなりの量が増えたということだと思いますですが、今回の浸入水のことは基本、汚水管のことを話されていると思うのですが、破損等がなく、そこまで量が増えることがあるのでしょうか。不明水ではなく雨水の浸入水ということですね。
矢須課長	おっしゃる通りです。不明水には雨天時浸入水と地下浸入水がありまして、主に管と管の継ぎ手部分や取付管の接続部分から管渠内に浸入するものと考えられております。また、雨天時にはマンホール蓋からの浸入も考えられますし、あとは誤接続といって間違って汚水管に繋がっていてそこから雨水が浸入してしまうということも推察されます。
村上副会長	そうすると雨天時浸入水でなく不明水全体を考えるということでしょうか。
矢須課長	不明水も含めまして雨天時浸入水の対策を行うということで、今回策定するものは、雨天時浸入水対策計画としております。
若色委員	資料4の1ページの耐震対策事業の部分ですが、1、2、3の関係がよくわからない。1では令和3年に1,752万円かけて耐震診断を行うとしており、2では調査の結果対策を打つべき工事についての詳細設計を1,969万円かけて行い、3では詳細設計に基づいた工事を2,640万円かけて行うということだと思いますが、この2の設計に関しては1の調査を行ってみなければ分からぬはずなのに、予算で具体的な金額や延長、箇所が明示されている。ましてや設計が出ていないのに工事金額が出てるのは奇妙だと思うが、これはどのような関係になっているのか。
原島主幹	1の耐震診断につきましては令和3年度に新たに診断するものです。次の2の設計につきましては、令和元年度に行った耐震診断の結果、耐震性能を有していない場所の工事をするための設計となっています。3の工事につきましては、平成30年度に行った診断の結果耐震性能を有していないと判断された場所

	<p>の工事分となります。ですので、診断、設計、工事の工程を一つのサイクルとしてローリングする形となっています。</p> <p>若 色 委 員 そのようなことであれば内容的には理解できますが、2 の設計に対応した調査がいつのものだったのか、3 の工事に対応した調査や設計がいつのものだったのかが明記されていないとよくわからないので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>原 島 主 幹 次回から明記するようにいたします。</p> <p>若 色 委 員 資料 3 の 3 ページの①管渠布設工事内の未整備路線の整備という部分と、資料 4 の 2 ページの③新規整備事業の部分に関して、未整備の場所に新たに下水管を布設していくことだと思うが、確かに入間市の下水の普及率は 90% ぐらいである。当然のごとく下水なり水道なりは住宅密集地を優先して布設して、だんだんと過疎地に向かっていく傾向になるはずだが、入間市で残された 10% の未整備地区というのは、過疎地になってくるのではないかと想像している。そうなると新たな 1 戸の住宅のために布設する管路等は長くなったりすることから、1 件あたりの工事費がだんだん高くなっていくと思う。</p> <p>5 年前の新水道ビジョンを策定した時も、50 年後の入間市の人口は驚くほど減るということを想定しており、このような管路というハードを作ってしまうと、50 年後の住民がまたその修繕費なりの更新のためのお金を負担しなければならないことになる。そうなると、どこか限界点を超えたところの整備工事は手控えて、その際は合併浄化槽のような個別の管路網に頼らないような方策というのも合わせて考えたほうが長期的なハードの維持管理負担費を低減できるのではないかと思うが、そのことは市としてどのように考えているのかをお聞きしたい。</p> <p>原 島 主 幹 委員がおっしゃられたことは、国もそのような考えを持っています。今回ここで予算計上されているものは、現在の事業計画区域内において污水管が整備されていない道路に整備するためのものとなります。住宅密集地のなかでも污水管整備時に家が建っていないかったため、目の前の道路に污水管が整備されていない土地があります。予算で計上している 300m というものは、300m を布設するという訳ではなく、事業計画域内において、家を建てたいので污水管を入れてほしいという要望が 1 年に 10 件くらいある訳ですが、そのうち実際に工事</p>
--	--

	<p>るのはおよそ3件から4件で平均の延長としましては、約15m～20mであり、その管を入れるための予算を計上しています。</p> <p>先ほど委員がおっしゃられた、合併浄化槽でも良いのではということについては、実際にそのような運用形態もあります。汚水管が整備されていない区域は、合併浄化槽などで排水を処理しています。合併浄化槽などからの排水を流す側溝などの整備の検討が今後、必要になってくると思われます。</p>
森 谷 会 長	<p>他に質疑はありますか。</p> <p>質疑がないようなので、続いて「入間市新水道ビジョンの見直し」について説明をお願いします。</p>
原 島 主 幹	<p>入間市新水道ビジョンの見直しについて（資料5）について説明</p>
手 島 委 員	<p>先ほどもご指摘させていただいたが、1ページの①の部分で令和3年度は南峯配水池解体工事費を特別損失で計上したことによりとあるが、もともと計画値で同じ額の2億円を計上した上で0.26億円の黒字となっている訳で、赤字になった理由はこの特別損失ではないと思う。その部分をよく認識したうえで、支出が多くなり損益の計画に対して損益の実績値が悪くなっていることを評価していただきたい。</p>
忽 滑 谷 参 事	<p>今後その部分に関しては詳しく精査させていただきたいと思います。</p>
森 谷 会 長	<p>他に質疑はありますか。</p> <p>質疑がないようなので、続いて「入間市下水道事業中長期経営計画の見直し」について説明をお願いします。</p>
原 島 主 幹	<p>入間市下水道事業中長期経営計画の見直しについて（資料6）について説明</p>
若 色 委 員	<p>1ページの①の表について、当初の暫定的な計画で見込んだ5年間で15億9,200万円の工事に関して、この計画が過大であって、結果として実施した7億3,300万円は必要な工事は全て実施しており、その上で計画値との差が出てしまったということなのか、それとも必要なやるべき工事が大幅に遅れていて、後にできたストックマネジメント計画と照らし合わせた時にもなお大幅に遅れていて差が発生しているのか、その実態をご説明いただきたい。</p>
原 島 主 幹	<p>実績値に関してですが、大規模団地などの必要となる管更生工事などの改築工事は実施しています。しかし、ストックマネジメント計画に基づいて発生す</p>

	<p>ると見込んだ改築工事は実施できていません。現在、ストックマネジメント計画に基づいて大きい管、幹線となりますがカメラ調査を行っています。現在、調査を行っている一つの幹線の調査が終わった段階で修繕改築計画を策定し、工事を実施するのですが、令和2年度には幹線の改築工事を見込んだ数字が記載されています。幹線の改築工事は修繕改築計画策定後に行うわけですが、実際には令和7年度以降になる予定となっています。</p> <p>一方でここには記載していないのですが、耐震対策事業のほうは中長期経営計画で計画している金額よりも高くなっています。実際に耐震診断をしていきますと、診断結果が悪いところがありますので、耐震化工事を実施しなければなりません。耐震化事業についても実際にかかる工事費に見合った金額を入れさせていただきたいと考えています。</p>
若 色 委 員	<p>実態として必要なものは実施しているということで、内容的に安心しています。しかし言葉尻を捉えるようで申し訳ないが、1ページ目の①の説明文の2行目には「見込んでいた改築工事を実施することができなかった」と記載されており、2ページ目の②の説明文も同じなのですが、必要な工事は実施しているということであれば、「できなかった」という表現のみだと、「必要なのにできなかった」というニュアンスに取られてしまうので、多少の状況説明を織り込んだ上で見込んだ工事を実施しなかったという表現にしたほうが、実態と合っていると思うので、この表現の検討もよろしくお願いします。</p>
森 谷 会 長	他に質疑はありますか。
手 島 委 員	非常に単純な質問ですが、8億円もお金が余っているのになぜまた3億円も借金するのか。8億円余っているながら、予算ではまた3億4,000万円ぐらいの企業債を借りるとしてあり、キャッシュが余っているなら別に借金することはないと単純に考えてしまう。利子が安いからかなと思ったが、毎年1億何千万円の利子を払っているわけで、ちょっとその辺が理解できない。
森 田 主 幹	企業債につきましては、中長期経営計画に基づいて、上限4億円の範囲の中で借り入れているものです。企業債の中には、入間市が行う公共下水道事業工事に対しての企業債と、和光市にある流域下水道処理場の負担金の財源とするための企業債の二つございます。委員さんのおっしゃる通り現金がある状況で

	すので、今後の借入に関しましては、精査させていただきたいと思います。
手 島 委 員	借金することは余計な利子を結果的に払っているということです。8 億円の金を遊ばせておきながら、借金をすることをよく考えていただきたい。
森 田 主 幹	その件に関してはよく考えていきたいと思います。
森 谷 会 長	今の手島委員からからお話をあった件につきましては、少し部内で検討していただきたいと思います。
相 葉 委 員	今の現状からいくと令和 5 年度に使用料の改定をするという計画になつていいと思うが、令和 3 年度に令和 4 年から令和 8 年の計画を見直すということでこれから作業をされるかと思うが、令和 5 年度に値上げするという予定については、いつまでに中身を決定するのかという計画はあるのかを知りたい。例えば令和 3 年度中に決定してしまうのか、それとも令和 4 年度に決定すればいいのかを知りたい。それから料金改定には議会の承認などいろいろな手続きがいると思うが、どのようなロードマップができているかを教えてほしい。
忽 滑 谷 参 事	今現在いらっしゃる委員さんの任期が令和 3 年 9 月末までとなつておりますので、料金改定の必要性等を含めて、それまでにご協議いただきたいと思っております。
森 谷 会 長	他に質疑はありますか。
	ないようなので、報告事項については以上で終了とします。
	続きまして次第 4 のその他に入らせていただきます。
	事務局からはなにか報告はありますか。
石 井 主 幹	2 点ほどご報告させていただきます。
	1 点目は、「入間市の水道・下水道」に関するアンケートの報告書が 3 月 15 日に納品の予定となつておりますので、報告書ができ上がりましたら審議会の委員の皆さんに郵送させていただきます。
	あともう 1 点ですが、新水道ビジョンや下水道中長期経営計画を来年度見直すにあたりまして、次回の会議を 5 月連休明けの中旬に予定したいと思っております。改めて開催通知の方は郵送させていただく予定です。
森 谷 会 長	その他ございましたらお願ひいたします。
岩 田 部 長	一点お願いをさせていただきます。例年、この審議会を年間 2 回開催させて

いただいておりますが、先ほどの会長のお話のとおり、令和3年度は水道ビジョン、下水道中長期経営計画の方向性を詰めなければなりません。先ほど委員さんからも質問がありましたとおり、料金改定という話になりますと、手続きや議会対応を含めて上半期中に方向性を示す必要がございますので、上半期中だけでも、通常の年間2回を上回る回数の審議会を開催させていただき、ご意見をいただきたいと考えております。またコロナ禍でどのような影響があるかわかりませんが、できる限り感染症対策に万全を期して、許されるのであれば皆さんのご意見を賜りたいと考えております。お忙しいなか、また、このようなコロナ禍の状況下でございますが、ご協力をいただきたくお願ひいたします。

森 谷 会 長 他にございますか。

上 野 委 員 貴重な時間をいただいてお話するのが恐縮ですが、今日思ったことを少しお話しさせていただけたらと思います。先ほど委員からお話がありましたが、今日の資料の中で一番驚いたところが、資料4の裏面の新規整備事業のところです。新規整備事業で300m工事延長するだけで2,600万円もかかってしまうのかと感じた。事務局の方からのご説明で、一軒家を建てるときに下水道管が通っていないことで、15mから20mを引かなければならず、これだけのお金がかかってくる。私も十数年前に家を建てました。その時不動産屋さんから「よかったです、家の前の通りには下水管が通っているし、ガスも水道もちゃんと整備されているので大丈夫ですよ。安心してください。」と言われたことがあり、それが今回のことだったのかと改めて勉強させていただいた。私の住んでいる場所は住宅街の中です。けれども少し車を走らせると住宅が少なくなっていて、空き家も目立つような箇所もあります。そういった中で、命を守る水の上下水道を整備していくことは本当に大きな課題だなと思います。しかし人口が減っていくことは誰もが想像できる中で、お金をどうやって使うかというところは、やはり市民一人ひとりが考えていかなければいけない。先ほど言った管の整備一つに關しても、やはり市民がもっと知っているなければいけない情報ではないかなと思います。今後中長期計画の見直しが迫っているなかで、ぜひ素人でも理解できるような内容の情報をたくさん出していただきたいと思います。排水

管の整備ではなくて、浄化槽の設置はどうかという話もありましたけれども、そういった場面にもっと公募して市民が参加して一緒に考えていきながら、計画や見直し、工事を実施していただきたいという思いがあります。自己水の比率や、一般会計の話もそうですけれども、理解を得ていくためにも、市民一人ひとりがもっと常日ごろから情報を得て、そこに参加しているという実感を持つなければ、それらの話も理解できないし、入間市の事業としても理解を得ていくことが難しくなっていくのではないかなと思います。ぜひ計画について市民参加型ということを考えていただけたら嬉しいなと思いお話しさせていただきました。

岩 田 部 長

ご意見ありがとうございます。確かに委員さんのおっしゃる通りだと思います。やはり市民の方の意見を聞いて寄り添っていくことが必要であると認識をしております。今回の答弁の中や資料の作り込みの中にも、そういう点が少し配慮に欠けている部分があったということを、しっかり受けとめ、対応してまいります。皆さんも知っている通り私は4月に異動してきたばかりで、水道も下水道も素人です。素人にもわかりやすく、それをどうやって発信していくか。その辺も部を挙げて考えていきたいと思います。ですから、今言われた管路の延長についても、家が一軒建つぐらいの値段がかかる事業ですので、その点をしっかり受けとめて、皆さんからいただいた使用料を大切に使っていくにはどうしたらいいか、このことを部を挙げて考えてまいります。また、このことを計画の見直しやビジョンの見直しに反映できるよう、部内の意思統一を図っていきたいと思います。本日は貴重なご意見ありがとうございました。

森 谷 会 長

それでは以上で令和2年度第2回入間市上下水道審議会を閉会とします。ご協力ありがとうございました。

議事のてん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためにここに署名する。

令和3年4月2日

入間市上下水道審議会会長

森谷香一